
闇に包まれた谷で咲く一輪の花

SAO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇に包まれた谷で咲く一輪の花

【Zコード】

Z3904P

【作者名】

SAO

【あらすじ】

篠ノ之 束によって命を救われた、孤児の少年 小熊純一。彼は世界に2人しかいない男でISを使うことができる人物である。そして、準一はIS学園と入学するのだが・・・。

TURN1 2人の男子入学生（前書き）

初めてまして、SAOです。

この小説は感想懇願小説となつております。

どんどん感想を頂けると嬉しいです。

TURN 1 2人の男子入学生

千冬 side

私は戸惑っていた。わが弟である一夏が、本来女性しか使うことができないエスを起動させることができたからである。そして、一夏は明日、初の男子入学生としてこの学校に入学してくれる。

そのとき、いきなり私の携帯電話が鳴った。

その電話に出ると、電話の相手は私の親友であった。

「はう～、ちーちゃん！」

「珍しいな、お前から私に連絡を取るなんて」

「そんなことないよ、私はちーちゃんのことを見つと夜も眠れない
よ」

「冗談を言つてないで本題に入れ。大事な要件があつたからこそ私は連絡してきたんだろ？」

「釣れないな」、ちーちゃんは。 Hinバスもびっくりなぐらい釣れないよ。

まあいや、本題をいつと、私の知り合いの男の子が明日、ちーちゃんに務める学校に入学するから4649！」

なぜ、どつかの古い暴走族みたいになつてゐるのかはおいておけ。といつか、こいつに突つ込んでるとキリがない。

「お前の知り合い？あの、お前にそんな親しい知り合いなんているのか？」

そのうえ男でありながらEVAを動かせるやつが？」

「4年くらい前だったかな？」

私が中国に身を隠してた時に、一人の孤児の男の子を見つけたんだよ。

普段なら、なんとも思わないんだけどね、どうしてかその子だけは放つておけなくて、拾つて一緒に暮らしてたんだよ～」

基本、束は私を含めて数人以外の人間には興味がない。

本人曰く「人間の区別がつかないね。わかるのは篠ちゃんとちーちゃんといつくんくらいだね。あと、まあ両親かねえ。

うふふ、興味ないからね、他の人間なんて」とのこと。

そんな束が他人に興味を持ったというのだから、ものすごいことである。

「でね、一緒に暮らして時に、なんかの弾みでその子がISHに触れたら、見事に起動しちゃってね・・・。

さすがにあの時はこの天才、束さんでも驚いたよ。

で、それからも一緒に暮らしてたんだけど、ちょうどいいからISH学園に通つてもらおうと思つて「

そう、先ほど一夏が初めての男子入学生と書つたが、正しくは一夏達2人が初めての男子入学生なのだ。

まさか、もう一人の子が束の知り合い、それも話を聞く限りとても仲のいい子だとは思つてもみなかつたが。

確か名前は、小熊準一といつたか？

「で、準君はそのあと、ずうううううーと私の指導の下でT-SHIRTについて学んだらT-SHIRTの適性試験でT-SHIRTをとつちやつたんだよね。

ほんと、準君はかわいいし、かつT-SHIRT。

まるで、フォレットみたい

褒められているのか微妙な評価だが、束のことだから褒めているのだろう。

それはいいとして、驚きだつたのは、その準一といつ子が入学試験の適性試験でT-SHIRTを取つたのだ。

T-SHIRTを出したやつなんてお手からT-SHIRTで数えられるほどしかないだろう。

そのうえ、男子でなんて前人未到だ。

「とこひりとで、明日から準君のことよひじへね。

じゃあね、ちーちゃん！」

そういうと、一方的に電話を切られた。

それにもしても、男子生徒2人が学園、いや、この世界にどんな変化

をもたらすのだろうか？

ISとは正式名称『インフィニット・ストラトス』。宇宙空間での活動を想定し、開発されたマルチフォーム・スーツのことである。

コアを製造できるのは開発者である篠ノ之束のみであるが、ある時期を最後に束はコアの製造をやめたため、ISの絶対数が467機となり、現在第1～4世代機が存在している。

ISは核となるコアと腕や脚などの部分的な装甲であるISアーマーから形成されている。その攻撃力、防御力、機動力は非常に高い『究極の機動兵器』。特に防御機能は突出して優れており、シールドエネルギーによるバリアーや『絶対防衛』などによってあらゆる攻撃に対処でき、操縦者が生命の危機にさらされることはほとんどない。また、ISには武器を量子化させて保存できる特殊なデータ領域があり、操縦者の意志で自由に保存してある武器を呼び出せる。さらに、ハイパーセンサーの採用によって、コンピューターよりも早く思考と判断ができる、実行へと移せる。

目が覚めると、いつもどおり見慣れた天井が目にに入った。

時計を見てみると午前6時半、入学式は9時からなのでちょうどいい時刻である。

ベッドから出て、顔を洗い、朝ご飯を作つているとケータイが鳴つた。

「おはよー、準君」

「おはようございます、東也さん」

電話の相手は予想通り東さんだった。

「ちゃんと一人で起きられたんだね、偉い偉い。」

「偉さんの度合いでこうとエマもへりいだね」

相変わらず、東さんのたとえはよくわからなかつた。

「こりうか、HRは高ければ偉いつていうものではないと思つが……。

「エラのほうは不具合ない?」

「大丈夫です……つというか使ってないので分かりませんけど」

「不具合があつたらすぐに教えてね。」

「準君のためなら飛んでいくから」

「この人は実際に飛んでくるから怖いのである。」

本人曰く、昔ミサイル型のもので飛んで行つたら撃墜されそうになつたとか……。

「学園の私の知り合いにも連絡しておいたから、何か分からぬことがあつたら聞いてね。」

「それじゃ、ばいばいきーん」

束された「そのバイキンマンの」最後を締めくくった。

今は教室での自己紹介の最中だ。

予想通り、入学式の最中は好奇の視線が集中しており……なんとかものすごく疲れた。

そして、自己紹介は名前順に行っているので俺の番はもう回ってきた。

「小熊純一です。いろいろとわからないことやなれないことがあると思うので、教えていただけたら嬉しいです」

自己紹介を終えると周りの女子から黄色い歓声が上がった。

なんというか恥ずかしい。

「それでは、次、織斑君よろしくお願ひします」

「織斑一夏です、よろしくお願ひします」

もう一人の男子生徒は簡潔に自己紹介を終えた。

休み時間になると俺は織斑一夏にしゃべりかけてみた。

「俺は小熊純一、よろしくな

「俺は織斑一夏だ。男子生徒は2人しかいないんだし、助け合つていい」

「一夏って呼んでいいか？」

「いいぜ。俺も準一って呼ぶな

「ああ

「準一はさつきのHIS基礎理論の授業分かったか？」

「ああ、思ったより簡単だつたな」

俺は4年近く東さんにて教えてもらつていたのだ。

正直、この学校の教師よりも知つてゐる自身がある。

「まじかよー。俺は全然意味不明だつたんだが

「多分、俺たちは同部屋だろ？」

だから、あとで教えてやるよ

「マジかー!助かる」

「それにしても……この女子の好奇の視線はどうにかならないものかね」

教室のクラスメートだけではなく、他クラスの女子、そして廊下にいる2、3年の先輩たちからの視線が俺たちに集まっている。

しかし、女子だけの空間になじんでしまっているのか、なかなか俺たちに話しかけるところとはしない。

それはクラスの女子も同じで、「あなた話しかけなさいよ」という空気と、「ちょっとまさか抜け駆けするつもりじゃないでしょうね」と的な緊張感が満ちている。

「ちょっといいか?」

突然話しかけられた。正しくは一夏が。

「……籌?」

「どうやら一夏の知り合いのようだ。」

「廊下でいいか?」

教室ではしゃべりにくいことなのか箒と呼ばれた少女と一緒に夏は教室の外に出て行った。

すると、どうなるか？

簡単なことである、今まで2人になたつていた好奇の視線が俺1人に集まる。

早く一夏帰つてこないかな・・・・。

TURN1 2人の男子入学生（後書き）

次回、あの代表候補生が登場する？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3904p/>

闇に包まれた谷で咲く一輪の花

2010年12月9日04時43分発行